

北アに登頂 中学生笑顔

学校行事の林間学校や移動教室で山を歩いた経験のある人は多いはず。でも、「中学生で北アルプスに登った」という人は少ないのでは。京都市にある私立の同志社中学校は50年にわたり、北アルプス・後立山連峰の唐松岳（標高2696メートル）で続けています。7月の登山に同行しました。

京都・同志社中 50年続く唐松岳登山



同志社中が唐松岳の「キャンプ」を始めたのは1968年。以来、毎夏に訪れて登山を続けてきました。2017年には地元の長野県白馬村から感謝状が贈られたほです。

昨年までは全員が唐松岳の山頂まで登っていましたが、今年は安全面などを考慮し、山頂まで行くコースは選択制となりました。7月下旬～8月上旬、2年生8クラスが4期に分けて実施。同行したのは7月24日で、2クラスのうち男女24人が山頂をめざしました。教員のほか、地元のガイドらが引率します。特筆は、世界最高峰エベレストに日本人最多となる9回の登頂歴を持つ山岳ガイド倉岡裕之さん(58)の参加です。倉岡さんはプロスキーヤー三浦雄一郎さ



①唐松岳の山頂をめざす生徒たち。後方は唐松岳頂上山荘。7月24日、富山・長野県境山荘の裏で出会ったライチョウ。7月24日、長野県白馬村

教諭「非日常を実感してもらいたい」

んが80歳でエベレストに登頂した登山家、1月に86歳で挑んだ南米最高峰アコンカグアの登山に参加しています。

八方尾根スキー場が基点です。夏も営業するゴンドラとリフトの計3本に乗り継ぎ、標高約1830メートル地点から歩き出します。山頂までは標高差約800メートル。午前7時半のスタートですが、リフトの営業時間を考えると、大人も日帰り往復は楽ではありません。

梅雨明け前だったので、ガラツと晴れた空はお預け。期待した白馬岳の絶景は雲の中でした。途中で、残雪の上を歩く場面も。夏でも涼しい風が吹き、生徒たちは楽しそうです。

11時過ぎ、山頂近くの稜線に立つ「唐松岳頂上山荘」に着きました。近くでは国の特別天然記念物ライチョウの親子にも出会いました。高山植物の女王コマクサのきれいな姿も、貴重な自然です。

正午前には全員が登頂。残念なことには周りは白いガス。それでも記念写真には笑顔が並びました。下山は事故が起こりやすいので注意が必要です。教員やガイドからも「気を張っていきなさい」という指示がありました。

出発から約8時間後、無事に登山を終えました。玉井理子さん(13)は「疲れたけれど、登った感じが良かったです。景色がとてもきれいで、山登りをまたやってみたい」と話しました。

田邊利幸教諭は長年、キャンプに関わってきました。「非日常を実感してもらいたい」という思いが大きい。苦労したからこそ達成感を味わい、物事の本質をつかむことにつながってほしい」と意欲を語りました。

(金子元希)

例年お世話になっております唐松ガイドの倉岡さんの紹介記事が「朝日新聞GLOBE」に掲載されました。記事の最後の写真は今年の唐松二期の唐松頂上直下の写真です。

<https://globe.asahi.com/article/12612156>